びわ湖トラスト親子環境学習講座 ～湖岸調査～ 報告書

認定 NPO 法人 びわ湖トラスト

実施日 ： 2023 年 8 月 2 日(水)
後 援 ： 大津市教育委員会
協 賛 ： 公益財団法人 平和堂財団
参加者 ： 14 組 29 名(大人:15 名 ・ 子供:14 名)
スタッフ: 12 名(講師・ボランティアスタッフ含む)

行 程

9:00 受付開始
9:15 開校式
　オリエンテーション

9:50 2 班に分かれて
　カヌー体験
　生き物調査
12:30 閉校式

今回は堅田渚運動広場に集合し、天神側河口付近で生き物調査を行い、カヌー体験も付近の湖岸で行った。近畿大学の学生の方 3 名がボランティアとして、亀甲武志先生と共に参加してくださった。

参加者の全員が揃ったところで開校式とオリエンテーションを開始した。今年は良い天気で、湖岸における魚介類のガサガサでの捕獲にはとてもよい条件と思われる。また、カヌーの捜査においても快適に体験できるものと予想された。

まずは開校式をとり行い、全体的なオリエンテーションの後、全員が集まって記念撮影をした。

この後すぐ2班に分かれ、「カヌー体験」と「生き物調査」を 1 時間ほど交互に行う。

カヌー体験は駐車場有の横の広場にて、生き物調査は開校式と同じ場所にて、それぞれのグループが集合して説明がなされ、講座を開始した。

【カヌー体験】

広場にて、オールの持ち方・漕ぎ方、足の置き方、ライフジャケットの装着方法の解説がなされた。カヌーは2人乗りや1人乗りがあり、取り扱いが違うし、座席の位置も確認も必要である。カヌーの取扱や操作について一通り習った後、ライフジャケットを装備し、カヌーを岸まで運び、次々と湖に漕ぎ出して行った。

穏やかな天気に恵まれ、カヌーはスムーズに動くようだ。初めての人は最初、少し苦労しているようだが、すぐに慣れて行ったようだ。

親子で声を掛けながら、それぞれカヌーは進む。カヌーは急には止まれないので、停止すると他のカヌーに少し当たることもあったが、転覆事故もなくカヌーの操作が行われた。好天の下、湖の素晴らしい景色を楽しみながら、カヌー教室をエンジョイすることができた。

【生き物調査】

近畿大学農学部水産学科准教授の亀甲武志先生とその研究室に所属する大学生の方は胴付長靴の本格装備、参加者は水に濡れても問題のない長袖長ズボンや水着のレギンスなどを装備し、タモ（網）、バケツを子供1人1つ持って、グラウンドの横を通って湖岸へと向かった。

岸辺に着くと、教えてもらった方法で水中の生き物をタモで採り始めた。足でタモへと追い込むような要領で採るのが正当なやり方であり、タモを壊さない。タモを力一杯動かして魚を追うとタモは簡単に壊れてしまう。しっかりとした体制でウォーターシューズなどで挑む。

初めは膝ぐらいの深さまでだったのだが、気付くと足の付け根や腰くらいの高さまで浸かって魚が居そうな場所を狙っていた。当初予定していた川は実際に入って行くことが出来ず、湖岸での魚介採集となった。今回の採集量は昨年と同様、やや少ない感じでした。

今回の調査で採集されたのは、ヨシノボリ類が主体であった。次いでスジエビ、ヌマエビ、テナガエビのエビ類が多かった。シジミ、カワニナ、タニシ類なども採集された。南アメリカ原産のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が採取出来たことは特筆事項である。またトンボの羽化後の殻も見られた。

採集した生物の説明のため、採取作業の終了を告げるが、名残惜しそうに渋々戻って来るのは、参加の児童だけでなく保護者の方もそうであったのは微笑ましい。例年のことでもある。
採集した生き物を透明容器に移して説明会。容器を様々な方向から観察したり、疑問に思ったことを先生に質問しては説明を受けたりした。
先生と学生達が事前に天神川で採取したものや、ホルマリン保存した試料を展示してもらい、その説明もして戴いた。
採集した生き物はビニール袋に入れてもらい、希望者はそれぞれの家に持ち帰ることができた。
今回は夏らしい天気、午前中の半日とはいえ気温が高く参加者の体調が案じられたが、熱中症や体調不良者が出ることはなく、無事に講座を終えることができた。
今回の参加者は、これからも引き続き自身でで生き物と関わり、琵琶湖について直接関節に、変化を観察して欲しい。そして琵琶湖について様々に想像を巡らせ、あるべき姿を考えて欲しいと思う。